

# 核兵器廃絶を実現させよう

「核抑止論」に固執する日本政府の態度は被爆国の恥

4月5日、オバマ米大統領はチェコのプラハで行った核兵器に関する演説で「核兵器のない世界」をめざすことを明言しました。

歴代の米政権は、広島、長崎への原爆投下を正当化し、核兵器の使用も辞さない政策をとり続けてきました。ブッシュ前政権は、核兵器の先制使用戦略を公にし、核兵器廃絶を敵視してきました。

日本政府は「日米安全保障体制のもとにおける核抑止力を含め、拡大抑止が重要」（中曽根弘文外相）などとし、相変わらず「核の傘」を維持することを米国に求める態度に終始し、マスコミからも「特異な立場」と批判されています。

## オバマ大統領のプラハ演説（抜粋）

核兵器を使用したことのある唯一の核兵器保有国として、米国は行動する道義的責任がある。われわれは、この試みに単独で成功することはできないが、それを導き、始めることができる。

それゆえ、きょう私は、核のない平和で安全な世界を米国が追求していくことを明確に宣言する。私は世間知らずではない。この目標はすぐに到達できるものではない—おそらく私が生きているうちには無理だろう。辛抱強さと粘り強さが求められる。しかし今、われわれは、世界は変えられないという人たちの声にも耳を貸してはならない。われわれは強く主張しなければならない、「イエス・ウィ・キャン」と。

## 日本共産党の志位委員長がオバマ大統領に書簡



東京を出発した平和大行進

この演説を受け、日本共産党の志位委員長は「核兵器廃絶」問題の一点に絞ってオバマ大統領に書簡を送りました。

書簡では、①核兵器廃絶を国家目標とすると初めて明示、②広島・長崎での核兵器使用が、人類的道義にかかわる問題であることを初めて表明、③「核兵器のない世界」にむけて、世界の諸国民に協力をよびかけていること、に對し大きな感銘をもったとしています。

一方、大統領が演説のなかで「（核廃絶が）おそらく私が生きているうちには無理だろう」とのべたことには「同意するわけにはいきません」と率直に書いています。書簡は「大統領に、核兵器廃絶のための国際条約の締結をめざして、国際交渉を開始するイニシアチブを発揮することを、強く要請するものです」としています。世界を核廃絶に向かわせましょう！